

補足資料（2024年12月現在）

1 被爆体験伝承者とは

被爆者の高齢化に伴い、被爆体験をお話しされる方が少なくなっている。広島市では、自らの被爆体験等を伝える「被爆体験証言者」と、被爆体験証言者の被爆体験や平和への思いを受け継ぎ、それを伝える「被爆体験伝承者」を平成24年度から養成している。これまでに証言者と伝承者あわせて240人が委嘱を受けている。（2024年11月1日）

被爆者数 10万6825人・被爆者平均年齢 85.58歳（2024年3月）

2 広島と長崎の慰霊式における黙とう開始時刻

広島 1945年8月6日 08時15分 投下時刻

長崎 1945年8月9日 11時02分 炸裂時刻

3 JR矢賀駅（芸備線）

爆心地までの直線距離約4km

エノラ・ゲイ号（時速約350km～400km） 上空9600m

4 日清戦争（1894年から95年）と軍都広島

1874年 第五軍団広島鎮台を設置（仙台・東京・愛知・大阪・広島・熊本）

1888年 第五師団司令部を広島に設置（管理下に歩兵第11連隊第一大隊）

1894年 甲午農民戦争（東学党の乱）と日清戦争（朝鮮内政改革）

- ・山陽鉄道が広島駅まで開通

- ・同年約2週間の突貫工事で宇品線開通（宇品港1889年開港）

- ・朝鮮半島および中国大陸への派兵・兵站の基地に

- ・9月8日 大本営発表

- ・9月15日 明治天皇来広

1896年 臨時陸軍運輸通信部（本部を東京、支部を宇品に）

1900年 北清事変

1904年 日露戦争・陸軍運輸部（本部を宇品に）

1905年 広島陸軍兵器支廠

1906年 臨時陸軍似島検疫所

1914年 広島陸軍被服支廠（竣工13年 爆心から2670m）

1937年 第一船舶輸送指令部

1940年 船舶輸送司令部を臨時編成

1940年 広島陸軍兵器補給廠

1942年 船舶司令部（陸軍船舶部隊「暁部隊」の統括）

1943年 陸軍船舶練習部

1945年 船舶司令部が8月7日から「広島警備本部」に

5 広島

1589年 毛利輝元が太田川河口の中州に広島城を建設し、地名を広島に
旧 太田川（猿猴川・京橋川・元安川・本川・天満川・福島川・山手川）

6 核実験から投下まで

1942年6月 マンハッタン計画開始（テネシー州オークリッジで濃縮）
20億ドルの経費

1945年2月 ヤルタ会談（ドイツ降伏後3か月以内にソ連の対日参戦）

1945年4月27日 第1回投下目標検討委員会 国内17か所選定（呉も）

1945年5月11日 第2回投下目標検討委員会 京都・広島・横浜・長崎

1945年6月01日 暫定委員会（住宅に囲まれた軍需工場へ事前警告なしで）

1945年7月20日 パンプキン爆弾（～8月14日）投下（1600名死亡）

1945年7月16日 世界初の核実験成功

1945年7月17日 ポツダム会談（トルーマンへの連絡）

1945年7月25日 投下命令書（8月3日ごろ以降、広島・小倉・新潟・長崎）

1945年7月26日 ポツダム宣言発表（天皇制の存続及び原爆使用は不明）

1945年8月02日 第1投下目標を広島とし8月6日に投下する命令

7 広島の代表的な軍需工場

三菱製作所・三菱造船・日本製鋼所・東洋工業

8 広島市の人口

居住者（28万から29万人）

朝鮮人（県内81863名）・台湾人・中国大陸留学生（6名犠牲）・ドイツ人神
父

ロシア人（5名犠牲）

アメリカ人捕虜（12名犠牲）→ 相生橋から500mの中国憲兵隊司令部に収容

広島文理大学南方留学生（9名）→ うち8名が被爆し、2名死亡

9 警戒警報と空襲警報

8月5日 21時27分 空襲警報発令
23時55分 解除

8月6日 00時25分 空襲警報発令
02時10分 解除
07時09分 警戒警報発令
07時31分 解除

10 ウラン 235

天然に存在する元素では最大の原子番号で放射性元素
原子番号92 中性子の数143

11 死者数

1945年末でおよそ14万人(±1万人) → 1976年の核廃絶署名(国連提出)
そのうち名前等が判明している死者は2019年3月末の時点で8万9025人
(広島市原爆被爆者動態調査)

多数の空白の犠牲者

原爆死没者名簿 34万4306名(2024年8月6日)

韓国人被爆者(広島で25000~28000人うち5000~8000が死亡と推定) 79年

12 融点

鉄 約1538度

銅 約1085度

アルミ 約660度

13 原子爆弾のエネルギー

爆風 50%

熱線 30%

放射線 15%

14 放射線

残留放射線は24時間で80%放出

15 佐々木禎子

爆心地から1.6km離れた楠木町で被爆(2歳) 奇跡的に無傷

小学校6年生の冬から自覚症状

1955年2月白血病と診断され赤十字病院へ入院

同年10月25日に8か月間の闘病生活後、12歳の短い生涯を終える

1958年5月5日「原爆の子の像」除幕

16 梶矢家

父(四郎) 熊野町出身 筆職人 80歳まで生きる 自警団の代表?

母(ミヨノ) 自宅でミシン仕事 94歳まで生きる(ガラス片が40~50)

長女(澄江) 当時22歳(42歳で逝去) 鉄道弘済会関係?

長男(民雄) 当時20歳(陸軍特別攻撃隊:福岡太刀洗基地)

次男(巳喜男) 当時16歳(海軍飛行予科練習生:茨城土浦?)

三男(文士) 5歳で逝去

次女(文子) 当時8歳(荒神町国民学校3年生)

四男(文昭) 当時6歳(荒神町国民学校1年生)